慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	営利衝動論(其二)
Sub Title	
Author	気賀, 勘重
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.4, No.4 (1910. 10) ,p.421(53)- 438(70)
JaLC DOI	10.14991/001.19101000-0053
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19101000-0053

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

なる主権授受の式を擧げて、米布合併の事始めて成る。

VI 自 つ 絕 5 日 全 及 忿 ζ 國 は 0 獨立 だ 述 す E 米 國 些 に、兩 * カゴ 女 重 る 其 る Ţ 者 初 史 0 K 0 (完結 ij. 遂 國 K 立 本 之を そ **()** 似 0

營利衝動論 (其

双賀 勘 章

race parts

す 3 る る 派 叉 ŗ 學 す 於 る 識 種 動 7 食 0 0 及 如 吾 C 也 認承 0 は 行 之を 之を肯 K 0 否 原 0 定 る P. 定 4 否 જ 類 ~ 馭 兩 ¥ 否 發動 物品 類 Š は を特に自 7 功等 叉此 7 0 經 H. ざる 濟 史的 を 的 定 有 渴 肉 0

四二一

腳

及 \$ る 介 下 士 弁 敎 1/ 間 文 明 `シ 小 上 ÷ 之 ラ 8 क्ष る ___ 迅 定 当 0 70 U 又 程 本 7 3 這 财 度 を 產 般 0 上 ず。 所 消 有 K 達 其 息 0 發 を 少 序 3 民 及 は C 7 8 日 待 及 0 . CV. 0 感 全; K ~ 初 B 0 如 類 ~ ~ 之 世 る を K 發 追 想 見

を 0 る は K 食 る 暖 L ž 衣 力 7 A -(細 之 K は 0 を 次 7 T 敢 同 (具 懶 重 7 K 及 多 **(?)** な す 2 額 3 安 尊 0 武 K 7 0 8 外 を 飢 を 博 蓝 な 飾 貧 餓 所 らず。 的 K **b**: K 3 し 有 得 至 依 武 K す .非 可 器 b 餓 b る 貯 及 2. 7 K 7 2 るな は 蓝 符 CK" 促 喚 ٤ 其 獵 之 起 2 南 其 物所 具 を 12 3 8 有 他 3 0 有 す 3 0 活 は る る 動 Z 其 E જ 0 殆 尊 K 復 8 な. 成 有 50 重 K 望 10 功 す 及 す 利 至 貨 . h る * 财 8 原 C 8 0 收 始 7 途 自 祉 有 は 衛 万 更 3 1 ४ K 自 努 可 Ė Ż 变 加

す 有 r 8 す 0 3 李 加 0 す 及 恐 す 0 ঠ 也 す る 承 世 以 F 力 盆 1/ 金 1 3 共 ٤ 至 銀 r K Ch に、所 る す n 3 K 寶 ず る 7 B づ 75 有 幾 是 0 開 る 5 0 叉 多 જ 的 K ۲, (0 0 5 加 1 h 血 ろ K る 7 爭 を 良 क्ष カ> 好 目 K N 7 的 爭 な る U 1 現 鬪 70 Ł る 利 は 0 る 貨 其 す 飲 8 K ----す 自 3 入 生 る 所 然 食 る 至 然 n 取 有 的 1 정 ·K る 2 類 الح ، 美 出 财 家 其 衝 る 家 利 な 稱 畜 0 實 寶 動 で 1 己心 畜 * 發 る 現 及 は tc 妻 美 CK" 達 粧 社 す る 妾 0 3 财 K 飾 K 3 る 會 K 及 物 る 以 寶 的 Þ す 収 又は 動 CV. 貨 求 上 0 ふ 制 7 此 奴 7 多 は 7 度 婦 及 力 K 隷 其 之 榮 也 0 0 K 老 衝 初 之 る を カゴ 人 手 7 0 8 を **(2)** 習 發 段 重 目 及 は 地 M 0 る 的 Ch

利衝動論

55

四三三

及 Ch 1 相 K. を 平 達 從 す 行 る す યુ 0 7 資 爲 利 る 潤 K 近 1 目 活 資 至 世 動 產 的 0) 步 0 h 0 人 文 を ځ 0 方 す L 0 3 發 T K 民 3 K 0 る Ó 集 向 展 發 於 0 情 H ٤ 生 K 7 H 實 於 名 相 及 す 3 力 譽、權 E る 弁 V 貨 度 CK" 生 K 财 h 發 る 4 亦 力 至 達 獲 る 6 鸄 る 享 自 な. 現 他 0 b K す 8 自 卓 3 云 得 存 は 感 出 Œ. A स्र h 0 世 0 自 斯 す h 力 7 我 *b* 意 3 Ł は す す 多 0 3 平 る M 0 等 0 0 0 各 感 ζ 生 的 7 土 及 此 競 す 實 爭 家 K 以 $V\subset$ る 在 現 0 刻 所

冱 3 h る Mi 力 0 日 7 は 0 7 を 生 世 0 7 3 利 3 南 安 る 0 逸 發 を 達 明 は 分 8 的 捨 叉 ~ 7 生 K 的 入 0 享 資. 5 人 料 類 を を J. 蒐 3 集 重 b 方 tt 要 面 懶 の惰 を h

5 る る b 手 .8 \mathbb{Z} 1 7 Ţ *b* る I_{j} 勞 は 働 東 將 此 7 る 玄 10 及 4 III を ঠ 27, .---0 可 1 0 民 勉 叉 0 世 死 風 Y 3 民 0 來 す İL K IIII ず。 全 K 0 U 7 然 7 育 利 を カゴ 人 -0) る 1/4 潤 類 省 人 寶 不 72 如 利 0 1 8 0 3 衝 b來 47 勞 ----る 動 0 自 理 0 人 7 類 0 的 快 8---由 0 る (2) 發 不 す 生 0 必 1 る 達 う 生 活 及 0) 0 を 5 高 湉 快 支 J., (2) る 0 を 水 利 侚 思 發 0 B を 配 九 邓 想 了 す 1/2 を 纤 75 現 K る h る 4 生 在 な K 3 6 K 浩 3 自 ~ な 0 之 至 CK, T? る K ぞ 制 快 K B る 及 從 K 爲 収 樂 0 h 習 h を 事 人 至 す 依 爸 永 か 0) 3 0 で、文 を 向 是 Ŀ 牲 る K 1 明 名 般 F. tt Z 効 K 0 初 世 譽 K L K 人 磐 風 £. ~ る 資 及 0 ş. U 利 は を 方 著 發 產 此 前 る る 有 (1) 衝 Ł 法 た Œ 0 0 す 達 V) K す は

衝動論

57

四二五

之 右 Ł き 生 E K す す 顺 代 < 0 係 K る B る 斯 を 7 賣 頹 生 損 を 者 於 は 享 0 p 0 あ 害 b 6 實 n 購 を 湛 地 る あ H 7 心 と 貿 す 顧 各 律 方 交 3 3 者、 3 的 8 亦 る 種 4 相 之 ٤ 강 0 領 對 舊 域 K 73. 0 哲 红 < 制 的 在 云 な す 限 經 *b*. 充 獨 U る 槪 る b 極 分 1 15 自 0) \$2 斯 K る 0 時 린 組 至 な る K 達 1 7 0) 去 る る 在 代 は 世 解 ~ $b_{\mathbf{o}}$ 濟 5 廢 社 這 は 營 す Œ n 的 L 通 會 如 K 經 此 利 ~(7 濟 盆 自 時 K 伴 0 由 大 代 派: 力 0 0 谷 み 交 次 胼 ば ঠ K 會 1 8 自 を 易 0 る 0 정 0 謀 0 國 す 7 1 營 害 制 經 る 民 Pa 全 E 度 7 利 ٤ 此 度 經 頹 大 大 K 即 衝 廢 發 を 1 0 濟 ド 世 足 動 得 現 達 る 下 固 0 n る 但 0 京 は 組 る な カゴ V-7 せ ŋ 0 織 交 ٤ n 勞 3 3 き 爭 (1 易 て 復 家 F 沚: 分 は 及 谷 省 12 爲 的 自 屋 會 配 b K b 組 人相 理 企 を

及 ず 정 用 る 亦 CA". 旺 常 생 K 1 力 ----る 定 ίČ 44 3 K 정 Œ ζ 0 **Ø**). K る 可 雪 色 L. う 7 る 6 塒 當 0 0 カゾ 大 進 D 沙 性 5 會 固 K 3 及 有 從 Ch 1 U. O 取 NY" 性 原 如 引 質 始 要 所 方 的 營 針 利 筓 動 衝 K K 1 强 非 0 7 弱 ず 發 又 生 0 其 度 8 企 を 性 見 變 3

遙 0) 1. 日 あ は 狀 營 7 大 北 態 利 非 本 亦 73. 西 K 0) は 亦 X 全 動 る 7 \$7) 大 逸 民 陸 જ 如 京 國 よ 南 0 0 阪 6 计 K 엉 民 在 遙 10 方 カゴ 0 勿 B 1 方 弱 的 發 (發 士 歐 K 1 悧 依 達 此 就 は 8 逐 敢 東 衝 中 0) 文 6 利 法 北 V 7 7 相 は る (異 南 高 方 સુ 民 K 部 發 間 な 支 K 餘 地 比 達 3. 10 0 人 仁 配 種 方 於 0 せ tt ----層 實 る B 0 1 -(高 住 は જ do 3 8 英 南 જ 5 1 少 弘 國 8 7 す る 3 及 及 原 る 北 K 0 始 米 人 北 及 K 支 Ch CY, 其 生 至 MU 北 東 的 3 未 地 0 3 0 少 方 図 開 目 0 3 0 K 國 民 國 的 る 1 合 發 民 其 民 1 及 0 間 地 達 此 於 7 る 發 ય K 0

營利衝型

59

四二七

忘 る K だ 7. き 2 V. 0 漫 K 往 下 年 જ 7 る 业 市 少 9 小 Ţ 江 民 る 1 7 7)> 戸 K な 2, 0) 人 b 也 K -(स्र 次 0 0 止 は K 0 女 手 大 南 達 3 衝 6 I つ 1 b_{\bullet} 未 下 4 動 世 級 殆 者 0 る 的 今 人 50 及 謂 來 民 民 0 關 る 及 CL" Ø 農 3 3 如 を 越 業 K 南 有 しの 多 る 界 眼 知 3 3 0) 1 性 及 を 徒 を K す 官 X CL" 变 0 る É 8 享 工 す 所 軍 家 保 gr 0 祉 以 業 ば 近 る 可 留 0 界 下 7 K 宗 行 如 变 K 4 K 次 級 0 9. 眩 感 下 人 る け 7 而 民 0 る 정 其 T 育 7 家 達 來 K 達 を స 1 绺

介 ğ K 3 万 主 ば 近 を 30 3 5 的 主 世 3 3. 0 は K 享 る 0 7 る 己 大 其 民 K 富 經 至 都 其 0 0 0 75 1 度 る 好 度 7 胧 8 0 か 2 0) n 3 き K K 3 Œ 非 目 ř K K 利 叉 K 支 が 的 U 其 富 其 n 酡 h 頂 及 K せ ~ 0 3 3 Ł 本 は Ch" 爲 る 少 營 న 面 る 利 0 1 目 多 0 Œ 狀 力 享 道 叉 南 感 ₹. τ 階 *b*. 士 此 は 充 亦 享 を K 及 習 K 滿 在 4 K CK 的 \$2 等 足 b る 社 世 非 37 0 0 ~ 增 0 面 尊 亦 人 進 は 士 此 す U 支 Ł 等 0 る る 及 7 K は 配 取 實 0 0 0 CK gr 世 手 感 限 h 7. 5 K 支 段 殆 富 所 ~ 砂 3 る を 3 其 75 は ÉD 0 b 世 主 其 る 5 Ł 5 h たに行 あ

世 7 交 通 及 業 充 分 K 行 全 自 由

營利衝動論

61

四二九

٤

gr

る

٤

今

達 8 之 ず 迫 之 生 3 3 K 3 誰 4 ず 到 0 ず 激 富 间 7 之 を Ł 姦 \$2 利 * 目 主 7 は な 破 义 會 企 貪 IJ. き 懋 T 7 業 K 6 (1) 0 進 家 飽 非 を 作 者 4 0) 0 得 ず 用 步 を < 行 和 は ----2. 1 發 斯 ば 7 爲 方 自 は 用 .0 利 攪 達 る 贵 3 3 也 K 於 次 極 0 適 0 金 0 B 盜 有 原 4 7 る K 賊 な な 5 は K を 3 力 3 恣 0 3 n 世 亦 ٤. 營 社 T 人 K 利 K 力 5 VI K K 7 至 實 貝 万 具 K 今 0 る 8 6 る 0 之 貪 0 7 功 層 天 欲 す £. 文 Œ 7. 0 る 1 K を 8 财 0 8 3. K 了 を る K. 見 蒞 る 5 塒 生 **b** 本 E 8 る み ぜ を す **C**. 過 今 0 K 加 る 在 激 爲 ず 如 0 日 n 世 力> 社 計 を Ł 尙 な K ず は き r 經 B る は 超 會 も る 手 肵 \aleph & 7 8 0 有 係 的 段 Ž, 吾 僞 办 を を は 3 ય は

1 在 可 n 化 出 る ·h ,7 的 叉 8 4 遙 發 達 K す \$ 8 な ふ r K 41. かぶ 1 將 3 上 良 7 な 因 す 0 き 3 た 貪 方 7 3 今 75 K 0 8 實 정 0 る ----層 風 杜 Ł は 0 b) 上 不 絕 其 衝 衝 南 る 善 あ 當 IE. 動 動 る 良 發 良 る ٤ 0 を 정 今 効 達 0 t 7 効 深 効 b 0 を 0 果 重 觀 絕 を 歷 E n 加。 す 往 史 苅 ば 3 は 其 方 的 題 は を W. 0 蓋 た ず D 絕 L 底 る 又 7 3 Ţ, は 不 8 K る L 丌 0 1 必 有 ζ. ン 可 及 4 ず を ず 7 l '須 事 叉 CK" 祉 方 3 સુ 75 7 せ 7 1 平 必 馬 る 勉 主 .Z. 取 要 等 を 節 ず 和 る 道 冤 約 者 な 可 to る K 於 其 る 可 \$2 K 0 6 非 3. 他 黃 ず b \$ 如 0 ず る 3 幾 金 理 0 Ė 策 鑑 其 多 可 は M ろ 劾 H 此 な ζ. 0 0 其 8 7 3 而

Щ

始 的 Z 木 更 的 KE. 角 以 る Ŀ 0 肵 ず。 K 依 b 餘 7 之 0 根 を 本 的 n ば 峇 利 相 衝 纤 は K 6 彼 判 0 然 自 存 别 衝 2 動 る 0 可 加 专 <

曾利衝動論

四三二

1 1 て な 初 或 -は 对 は 的 75 7 烈 或 す た 勉 1/t 1 3 11> K 家 名 3 જ 0) 0 活 7 肉 K 心 體 動 家 を 7 之 0 力 7 自 13 用 的 欢 が K を K. 連 70 K 斯 爲 3 望 る 祭 作 發 3 を 方 n 3 用 達 2 F る K 27 配 7 7 世 結 す あ る 曾 加 用 太 爾 \$ 9 浪 h 0 其 古 6 ,0 或 作 0 ĬC. 千 作 感 用 は あ 情 5. 用 家 年 0 を 及· を 逞 果 刨 CK K 0 ঠ 對 發 は す 5 T 的 す す 動 漟 的 心 る 決 2 る る 0 少 異 ぞ 動 る 爲 7 あ 0 근 見 身 は な 當 は 發 的 常 吹 る 實 的 る 漟 K ٤ る 人 今 0 愛 K K K 8 0 ----依 待 從 K 故 K ٤ Ŋ to 及 次

る 自 0 は 原 斯 動 0 力 如 VC ₹ 정 原 非 始 ず。 的 0 其 發 生 K 及 非 Ch 3 作 る 用 ٤ 同 は 消 溡 德 K 叉 及 人 CL" 類 慣 ---K 般 依 K 6 平 法 等 K 之 K 依を

玄 ば 其 用 5 10 0 b 东 ે જે 其 は E 8 市 可 ---利 之 及 な 其 3 정 K म 的 間 る ば 此 類 3 取 0 決 2 事 ok 家 大 7 す 少 引 民 大 内 る \$ T i/C 工 7)> 國 K * 業 b स्र 民 な 伸 ----經 大 せ 受 體 な K る 濟 今, 云 J.b 정 人 上 E 0 . b ٤ 0 7 當 0 文 定 7 云 め 0 2, 各 を 現 種 京 可 K Š を る 失 る 象 人 及 8 利 ·H 可 ---8 民 的 0 Z 7 K 少 5 30 靗 間 多 7 動 ず。 A. K る 大 K 1: を る る 加 同 を 0 す 定 70 な 良 同 心 人 0 3 盆 る 0 あ 祉 、を b は 3 間 從 6 會 者 同 ~ K K 竟 其 及 於 斯 0 原 C 今 容 心 7 7 K る 因 交 を あ 支 事 ž 子 力 ゃ る 配 實 K ---す 0 着 戾 南 定 せ る 形 る 誉 實 6 知 0 る જ τ K 脈 る "נמ ----肵 0 せ る 故 な 般 な 企 る જ 可 な 的 0 *b* n は K 高 B 0 9 誉 分 3 何

四三

營利衝

す 0 ----舍 જ 0 8 冤 0 7 を を ~ す て す る 8 を 企 7 Z, せ な 形 눛 Ł ---る 0

る b 3 CK" 7 3 力 K 及 力 し あ C 的 W J る 3 自 民 る 多 & 制 D 主 力 0 Ō 人 た 發 士 發 0) * 發 0 促 衝 達 を 達 を 達 ___ 0) ,驅 促 原 Ł L 0 相 因 b な K 原 世 あ 俟 於 3 7 動 は b 5 叉 Œ Z) V 力 濟 將 相 1 3 0 力 來 的 此 8 L 衝動 此 方 0 7 忿 激 此 ž K 動 す を 3 K 在 其 動 要 7 7 败 3 0 精 念 起 0 力 用 効 됯 す 世 交易 家 動 を は 用 る る 顏 정 を は 정 令 經 注 的 實 W 今 0 る 0 偉 日 せ \mathbb{C} 沒 を 7 B 却 幾 發 な は す 多 て 企 0 當 發 可 0 を જ 次 b_{\bullet} 達 逐 今 5 ^ 智 0 兎 げ ٤ 0 0). あ 感 智 相 美 る K L. 如 B B を

世 0 達 0 0 7 大 至 K 0 40 Š 7 な を 資 生 產 る 比 人 3 士 は 0 爭 ふ # 可 的 す 5 活 る 2, 動 0 る 上 主 士 0 要 0 H 而 地 多 位 き て を 是 占 加 B \$2 ^ 氣 其 正 富 力

み 高 જ 3 万 寧 な 7 支 Z B ろ 7 7 る Ł ----1 ず る 常 世 性 爲 0 ζ 幸 5 質 K n 7 る 全 富 る 0 0 る 0 を K 士 心 致 K K 弱 至 如 向 亦 及 P. 7 7 を .2 世 る る 女 ঠ 0 る だ 0 高 0 な み 人 业 有 き 士 普 る 7 な 士 な 赤 現 長 企 0 か> る 中 業 す 0 斯 女 5 或 能 K た ず。 生 0 る 力 跳 જ カ> Ø 虚 な を 0 5 粱 0 他 而 利 É 劣 Ł 2. 世 0 を せ 3 世 .7 目 ず 及 ば は を 人 h 復 3, は 吾 る な 道 Vi な 企 人 10 ~ 德 非 は、人 정 業 は 的 上 家 此 3, を 7 b 將 あ る 0 衝 類 *b* • 經 75 な な が 利 9 祉 ず。 濟 0 す は 蓋 會 界 發 b 可 動 U 上 達 若 を 加 營 \$ 0 高 有 ঠ্ঠ 支 L 利 を 性 み 0 酡 見 る 營 0 な h な K す 利 支 K る 他 る る £ 衝 0 配 K 0 0 動 0 b 高 す

四三五

同利衝動論

3 其 取 生 0 多 を は 1 道 Ŋ 利 底 を 不 ば 3 可 0 る た 間 る 可 必 ず を き K 冤 發 ~ -----步 如 n 達 云 世 ず。 す Ü 0 る 制 る 企 民 此 E 合 萝 な 0 云 0 B K 道 S W K 0 德 發 九 的 其 ~ せ 0 る 爲 質 達 五 經 0 な 卽 5 3 的 用 云 所 生 な 不 謂 活 る 告 ~ 可 を K 75 Œ 的 文 於 直 德 7 30 K 明 は

を 之 7 7 世 害 n U 3 傾 0 向 用 z す 8 ---方 る 0 結 す K す る 3 は 7 個 K ず 人 的 0 る カ> 進 爲 0 K 步 其 を 0 南 發 致 Z 方 其 K 而 健 U る 7 7 其 所 社 實 以 會 有 7 力 な 及 及 る CL な 0 シ

行 用 n 氏 す 此 0 E る 目 理 は 各 要 정 今 由 25 0 K 適 出 近 6 0 ず。 7 K 70 習 的 現 n る 0 K 法 理 外 な 及 8 3 中 5 Ch す 0 道 3, ね る 德 所 す 了 0 三者 *b* • જે 0 0 7 tc ž 人 Ż ----斯 る 0 カゾ 人 學 を ٤ 因 得 明 上 せ 0 K Ž, を ば 0 圣 み 在 7 吾 る 文 0 明 ず th U b る K る は b . & 加 0 7 主 ঠ る る K ~ K を 敎 を 於 ΙE 捨 授 至 Ł を 見 V n ヷ て る る グ カ> **CR**, 鸄

を h 要 せ b・ ず 而 7 7 7 す な K 0 愚 其 可 源 た n る 徒 を を K 有 其 冤 4 る n を K. 3, 3 見 7 す 0 之 0 及 る を な 根 5 絕 は 亦 深 せ h \$ 75 K 機 Ł 多 す る 0 は 7 功 始 的 な を 多

70

奔逸する ۲۳. 3 ぞ 0 n 危 **發達は之を助長す** ず。 ば其發 險は之を死 達と 真正 共 n 7 K 3 其 發達 可 果を を K 其發 K 於 達 す 赴 7 也 カ> K す 0 可 任 7 当 せ Ø か、有害 途は唯一 な る 6 方 世 0 面 K

講

演

家屋構造と經濟狀態

村 宏

ます V て諸君に研究の材料を與へて諸君に研究を願ひ のであります。 が、其意見を私が此所に申上げるのではな態にどう云ふ影響を及ぼすかと云ふのであ は東西家屋の構造の違ふのは、經濟狀態、

家屋の大きさと、それから歐羅巴各國の人間の身 是がどう云ふやうになつて居るかと云ふてとを諸 私は諸君に御研究を願ひたい 大きさと、それから家屋との比例であります、 それから假に歐羅巴各國の家屋の大きさ 究を願ひたひ、 の身體の大きさの比例が若し分つた 私は未だ調査が のは歐羅巴各國の 出來て居

記憶する、 英吉利、 ならば、 國では家屋が比較的小さかつたし道幅も狭かのた 家屋と云ふものを方程式を拵えたならばどう云ふ 洋の家屋と云ふものと、 に比して無論非常に小さいと云ふてとは當然の事 うて變遷のあるもので やうに記憶 家屋であ きさと云ふ意味は主として間取の と思かい の大きさの比例 是等の土地に於ては家屋は大きかつたと なれども大體に於て西洋人の大きさと西 ¥ つた實驗に依ると、 ある例へば北米合衆國の ムと云かやうな古い土地は ヴ エ 無論家屋 或は獨逸の家屋、 又どうなつて居るか、 蘭であるとか或は白耳義の諸 ルス、 げ兼ねるが ありますから で私は數字でどの位の 本人の大きさと日本の と云かも 和蘭のアムステル 巴でも露西亞 大きさと云 或は佛蘭西 のは時代に伴 白耳義のガ 私の外國 で建國 今日 H.